

【高等学校用】

令和6年度学校評価 結果

学校名	佐賀商業高等学校	達成度(評価)
1 前年度 評価結果の概要		

1 前年度 評価結果の概要	・学校の教育目標に基づいた本年度の重点目標は概ね達成できている。 ・本年度の取組をさらに深化させ、基礎学力向上と家庭学習の定着を図り、確かな学力と主体的に学び続ける力を育成する。また、社会で通用する心の教育やモラル・マナー教育を推進する。 ・本年度の課題を精査し、業務の精選・改善を進め、専門高校の特色を活かした教育活動を推進する。また、働き方改革を推進し、働きやすい職場づくりを行う。
------------------	---

2 SAGAスクール・ミッション 学校教育目標	○佐賀県の商業高校の拠点校として、これから時代に求められる商業教育について検討を進めること。 ○各学科の特色を生かし、自治体・高等教育機関・地域の産業界等との協働・連携による実践的かつ探究的な教育活動の充実を図り、グローバルな視点でコミュニティーを支える地域のリーダーを育成すること。
----------------------------	---

アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	グラデュエーション・ポリシー	4 本年度の重点目標
本校では、次のような生徒を求めています。 (1) 勉強と部活動の両立をめざして意欲的に取り組む生徒を募集します。 (2) 高い志を持ち、目標達成のために努力できる生徒を募集します。 (3) 商業分野の学習に关心があり、資格取得に意欲的に取り組む生徒を募集します。	(商業科) 独創性を持ち自由な発想ができるクリエイティブな能力を備え、時代の変化に対応し、積極的に活動して情報異なる多国籍の人々と協働できる力を備え、国際社会に自信を持って発信できる「コミュニケーション力」と「グローバルマインド」を兼ね備えたグローバル人材教育を行います。そのために、日商簿記2級や実用英語検定2級などの高度な資格取得をめざすとともに、選択科目では商品開発や販売などの実践的な学習や起業家教育などの教育活動を行います。	(情報処理科) Society5.0を支えるIoTの時代の革新的技術への理解を深め、デジタル化・グローバル化のツールとして、デジタルネットワークを活用してニーズに合ったサービスを提供できるクリエイティブな人材教育を行います。そのため、日商簿記2級や実用英語検定2級などの高度な資格取得をめざすとともに、第2外国語（中国語・ハングル語）の学習や、特色ある学校設定科目を通じた探究活動や体験学習、国際交流などの教育活動を行います。	① 心身ともに健康で逞しい生徒の育成 ② 安全安心な学校づくり ③ 主体的な学びと判断力の育成 ④ 様々な経験の場の創出 ⑤ 地域とともに生きる学校づくり

5 重点取組内容・成果指標	中間評価	最終評価
---------------	------	------

(1) 共通評価項目			評価項目	重点取組	具体的な取組	中間評価	最終評価	学校関係者評価			
			評価項目	取組内容	成果指標 (数量目標)	進歩度 (評価)	進歩状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○主体的な学びを重視した授業の推進	○教員相互参観の公開授業を行う	B	・他の先生方の授業を参考に自己の授業を見直す。 ・商業科の課題研究をはじめ、各教科で主体的な取組を実施し2月に行うSSプレゼン大会に多くの生徒が参加するようにする。	・11月に各教科代表の研究授業を行った。他教科の参観もし、参考になることもあった。 ・SSプレゼン大会は商業科を中心企画している段階である。	B	・11月に各教科代表の研究授業を行った。他教科の参観もし、参考になることもあった。 ・SSプレゼン大会は、課題研究のほか多数の参加があった。発表の態度、内容が素晴らしいものであった。	A	・SSプレゼン大会についてHPで拝見し、聞いてみたいくつもの生徒が多かった。プレゼン能力は、社会でも必要とされるスキルなので一層の取組を進めてほしい。 ・人にわかりやすく伝えるために、どのように工夫すればよいかを考えるいい機会になっている。 ・保護者も参加できるようにしてほしい。	A	・多くの生徒が部活動との両立で、勉強時間の確保が難しいと思うので、引き続き学習時間を増やす取組みを続けてほしい。 ・アプリ導入による効果の検証、活用の推進をお願いしたい。
	○自ら学ぶ姿勢と確かな学力の育成	○ OSSプレゼン大会の充実		・自己の学力把握と向上に向けた動機づけを年度の早い時期に行い、家庭等での学習を1時間以上を目標に指導する	・到達度テストと教材配信アプリにより自己にあった教材に取り組ませる。空き時間を利用した学習を進める。		・係と学年主任の尽力で課題配信は概ねできていたが、家庭学習の時間が少なくなっている。		・係と学年主任の尽力で課題配信は概ねできていたが、家庭学習の時間が少なくなっている。		・多くの生徒が部活動との両立で、勉強時間の確保が難しいと思うので、引き続き学習時間を増やす取組みを続けてほしい。 ・アプリ導入による効果の検証、活用の推進をお願いしたい。
●心の教育	●生徒が、自他の命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○図書館の来館者数、貸出冊数の増加	B	・環境整備、情報提供、蔵書の充実を図る。	・来館者、貸出冊数ともに、1年生を中心に増加している。	A	・図書館だよりを毎月発行し情報提供に努めるとともに、随時館内整備を行った。生徒、職員からのリクエスト本も多く購入できた。 ・来館者、貸出冊数ともに1、3年生を中心に微増した。	A	・本を読む習慣を高校生活の中でこそ、もっと促してほしい。 ・スマートで検索すれば、何でも解決しそうだが、来館者、貸出冊数が増加しているのは素晴らしい。	A	・本を読む習慣を高校生活の中でこそ、もっと促してほしい。 ・スマートで検索すれば、何でも解決しそうだが、来館者、貸出冊数が増加しているのは素晴らしい。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○生徒の情報共有の徹底		・個人面談(4月、9月)、Hyper-QU検査(1回)、生活状況調査(いじめ等のアンケート・各学期に1回、計3回)を実施し、生徒の学校・家庭での状況を知り、学年団との情報共有を図る ・スクールカウンセラーの積極的活用 ・生活状況調査(いじめ等のアンケート)の回答率アップに努める ・いじめ防止強化月間(5月・12月)における啓発活動の実施、教育相談などでの啓発	・個人面談やHyper-QU検査等計画通り実施できている。生活状況調査(いじめ等)のアンケート以外に、心身に関する健康調査を2回実施した。欠席が多い生徒の状況を把握し、早期にカウンセリングにつなげ、関係者との情報共有ができた。 ・生活状況調査(いじめ等)はPCTでの回答方式ではあったが、PCの不調等が多く、質問紙で回答した生徒も多かった。 ・いじめ防止強化月間にあわせ、クラスでのポスター掲示と相談窓口一覧を配布し、早期に相談できるような機運醸成を心掛けた。		・個人面談やHyper-QU検査等計画通り実施できている。2回の生活状況調査(いじめ等)のアンケートと、心身に関する健康調査10月に学習用PCを活用して実施した。アンケートであったが、嫌な思いをしたといふ訴えや、心身の不調を訴える生徒の状況を把握し、早期にカウンセリングにつなげるなど、関係者との情報共有ができた。 ・いじめ防止強化月間にあわせ、クラスでのポスター掲示と相談窓口一覧の配布、SNSを使ったアンケート窓口の紹介など、早期に相談できるような雰囲気づくりを心掛けた。		・早期の発見、対応の体制が確立している。 ・SNSが普及している今日、受け取り方次第で不快な思いをする生徒も多いと思うが、相談しやすい良い環境づくりで、小さいうちにサポートできるよう今後とも見守ってほしい。 ・問題を抱えた生徒一人ひとりに、適切に対応されており、今後も早期の発見・適切な支援を継続してほしい。		・早期の発見、対応の体制が確立している。 ・SNSが普及している今日、受け取り方次第で不快な思いをする生徒も多いと思うが、相談しやすい良い環境づくりで、小さいうちにサポートできるよう今後とも見守ってほしい。 ・問題を抱えた生徒一人ひとりに、適切に対応されており、今後も早期の発見・適切な支援を継続してほしい。
	○モラル・マナー教育の充実	○「情報モラルを守っている」「挨拶や礼儀を身につけている」と回答できた生徒を90%以上とする。		・年間2回、情報モラルアンケートや学校生活における自己チェックを実施し、モラルの向上や意識づけを図る。 ・情報モラル教育では、関係外部機関との連携による講演会を実施する。 ・ルールメイキングプロジェクト委員会を組織し、取組みを行っていく中で、生徒がより当事者意識を持ち、自ら考え行動する機会を設ける。	・校外での行動モラルに関して、自転車の通行マナー等について、校外の方から注意・苦情をいただくことがあり、その都度指導している。 ・情報モラルに関しては、新入生オリエンテーションで講話を実施し、意識付けを図った。また、学校行事の際など適宜指導と注意喚起を行った。 ・ルールメイキングプロジェクト実行委員長である生徒会長を中心ルールの見直しや改定に向けた取り組みが昨年度よりも更に主体的に活発に議論されたが、ルールを守るという規範意識のところで、まだまだ生徒間での意識に差を感じている。		・校外での自転車マナーに関して、自転車マナーアップモデル校としての様々な取り組みにより、例年よりも事故や外部からの苦情等が減少した。 ・情報モラルに関しては、防犯講話をはじめ、集会等でその都度指導を行った。今後も更に指導を継続・充実させる必要がある。 ・ルールメイキングプロジェクトについては、後援会や評議員等へのアンケートを実施するなど、様々な取組みが継続できた。		・被害者にも、加害者にもならないように引き続き交換マナーアップの取組みを継続してほしい。 ・ルールメイキングプロジェクトの取組みは、規範意識やマナーを身につけることにもつながる。今後にも期待している。 ・情報モラルの研修やアンケートについては年に複数回実施し、常に意識するように徹底してほしい。 ・SNSによる犯罪に巻き込まれないための教育の充実が欠かせない。 ・よく挨拶をする学校というイメージが減少してきているようを感じる。 ・ルールメイキングプロジェクトで決まったことについては、保護者にも周知してほしい。		・被害者にも、加害者にもならないように引き続き交換マナーアップの取組みを継続してほしい。 ・ルールメイキングプロジェクトの取組みは、規範意識やマナーを身につけることにもつながる。今後にも期待している。 ・情報モラルの研修やアンケートについては年に複数回実施し、常に意識するように徹底してほしい。 ・SNSによる犯罪に巻き込まれないための教育の充実が欠かせない。 ・よく挨拶をする学校というイメージが減少してきているようを感じる。 ・ルールメイキングプロジェクトで決まったことについては、保護者にも周知してほしい。
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に良い食事をしている」生徒80%以上	B	・保健体育や家庭科の授業、部活動の中で、食生活の重要性を指導し、生徒の意識を高める。 ・保健大より、健康維持のために必要な情報を提供し、生徒の健康に対する意識を高める。	・保健体育や家庭科の授業、部活動の中で、食生活の大変さについて指導してもらっているが、アンケート等で、食生活の状況について確認することができなかった。次年度アンケートを実施したい。 ・歯科講話や保健大により、食や歯のメンテナンスについてなど、健康維持のために必要な情報を提供し、生徒の健康への興味・関心をもたせることができた。	A	・交通安全に関する意識を高めるため、関係機関からの講演を行った。 ・9月に自転車交通安全教室を実施し、実際にスタントマンによる事故再現の実演を見学し、事故の恐怖と危険性について学ぶことができた。 ・現在2回の学校生活アンケートを実施し、日常を振り返る機会をつくれている。	B	・交通安全講話・防犯講話の実施により、交通ルールやマナーを守ること、犯罪等に巻き込まれるリスクの回避についての知識と意識の向上が図ることができた。 ・スタントマンによる自転車交通事故安全教室を実施し、生徒は事故の恐怖と危険性について学んだ。 ・学校生活アンケートを面談等で活用し、日頃の生活態度等の確認や見直しのきっかけ作りに役立てることができた。	A	・スタントマンによる安全教室は、危険性を身近に感じられる非常に良い機会だったと思う。 ・自転車通学時のヘルメット着用について、早急に対応してほしい。
	●安全に関する資質・能力の育成	●生徒の生活事故・交通事故を0(ゼロ)にする。		・交通安全・防犯について関係機関と連携し、講話を開催する(6月・7月)。 ・常に佐商としての自覚をもち、規範意識を高める。アンケートを各学期に1回実施し、日頃の生活態度等の確認や見直しのきっかけ作りを行う。	・交通安全に関する意識を高めるため、関係機関からの講演を行った。 ・9月に自転車交通安全教室を実施し、実際にスタントマンによる事故再現の実演を見学し、事故の恐怖と危険性について学ぶことができた。 ・現在2回の学校生活アンケートを実施し、日常を振り返る機会をつくれている。		・交通安全講話・防犯講話の実施により、交通ルールやマナーを守ること、犯罪等に巻き込まれるリスクの回避についての知識と意識の向上が図ることができた。 ・スタントマンによる自転車交通事故安全教室を実施し、生徒は事故の恐怖と危険性について学んだ。 ・学校生活アンケートを面談等で活用し、日頃の生活態度等の確認や見直しのきっかけ作りに役立てることができた。		・スタントマンによる安全教室は、危険性を身近に感じられる非常に良い機会だったと思う。 ・自転車通学時のヘルメット着用について、早急に対応してほしい。		

(1)共通評価項目									学校関係者評価		
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		評価	意見や提言		
	取組内容	成果指標 (検査目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果				
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○時間外勤務の時間数を年平均で5%削減	・定期退勤日(月曜)の設定と口頭による啓発を行う。 ・長期休業中における学校閉庁日を設定する。 ・学校基本方針に沿った部活動の活動時間および休養日を徹底する。	B	・校務分掌により、業務量が多くなる時期がさまざまであるが、仕事量を見て早めの帰宅をするよう促した。4月から12月までの時間外の平均は34時間となっており、昨年度の同期間と比べると1時間増加している。 ・学校閉庁日については、進路支援部や特活支援部等との協議で3日間設定した。 ・部活動の休養日設定について、大会を控えていない時期は積極的に設けるよう周知していきたい。	B	・校務分掌により、業務量が多くなる時期がさまざまであるが、仕事量を見て早めの帰宅をするよう促した。4月から12月までの時間外の平均は37時間37分となっており、昨年度の同期間と比べると約2時間減少している。 ・部活動の休養日設定について、大会を控えていない時期は積極的に設けるよう周知していきたい。	B	・時間外業務の時間数が減っているものの、仕事量が減っているわけではないと考えられる。簡素化できるものは簡素化し、業務負担の軽減をお願いしたい。 ・部活動時間の短縮は難しいと思うが、教員が健康で働きやすい職場づくりを目指してほしい。 ・部活動にも力を入れて指導されていることは理解しているが、教員の休日確保については、時代の変化、社会意識の変化や教員を希望する者の減少を考えると、意識改革をさらに進めていく必要があると感じている。		
	○積極的な休暇取得の促進	○有給休暇の取得を年間14日以上の職員を45%以上にする。 ○会議の精選と会議時間の削減(1時間以内)	・有給休暇を取得しやすい職場環境づくりに努める。 ・情報共有や資料提供などの連絡については、校務システムのメッセージやメール機能を活用し、会議の削減を図る。また、会議時間1時間以内を徹底する。	B	・定期考査期間中の午後などに年休の取得を呼び掛けている。令和6年に有給休暇14日以上を取得した職員は19名であり、35%であった。 ・サービス管理システムが導入され、以前より年休等が取得しやすくなっている。 ・会議については、ほぼ1時間以内で開催できる。	B	・定期考査期間中の午後などに年休の取得を呼び掛けたが、採点等の業務でなかなか取得が難しく、1月末現在で14日以上取得した職員は20名で36.4%であった。 ・自分の休息のための年休をとることに抵抗がある職員がほとんどでその意識も少しずつ変える必要がある。	B	・教員も本が資本であり、「休めない」「休むと同僚に迷惑がかかる」という意識をもつていくことで、結果的に業務の改善につながっていくものだと考える。 ・教員のQOL向上は教育の質の向上にもつながるので、休息のための年休取得を推進してほしい。 ・年休取得状況は、毎年伸びないと感じている。十分な休養が次につながると考えられるところから、働きやすい学校となるように環境を変化させてほしい。		
●特別支援教育の充実	○教職員の専門性の向上に向けた取組の充実	○職員研修の充実 ○関係機関との連携強化	・スクールカウンセラーによる職員研修を実施する。 ・支援が必要な生徒に関して、必要に応じてSC、SSWや関係機関と連携し、職員の対応能力を高める。	A	・SCによる「配慮の必要な生徒への対応方法」について7月に職員研修を実施した。 ・長期欠席の生徒や支援が必要な生徒と保護者に対して、SCのカウンセリングを定期的に実施し、進路変更にいたる助言や、医療機関等の紹介もしていただいた。担任等への助言・援助も教職員の対応能力向上に役立った。	A	・SCによる「配慮の必要な生徒への対応方法」について7月に職員研修を実施した。 ・支援が必要な生徒と保護者に対して、SCのカウンセリングを定期的に実施し、進路変更にいたる助言や、医療機関等の紹介もしていただいた。担任等への助言・援助も教職員の対応能力向上に役立った。	A	・スクールカウンセラーと十分に連携して取り組まれている。 ・研修および相談窓口がしっかりと整えられている。		
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									学校関係者評価		
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		評価	意見や提言		
	重点取組内容	成果指標 (検査目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果				
★唯一無二の誇り高き学校づくり	★地域の活動に積極的に参加し、地域を知り、地域を愛する心の育成 ★県内外への生徒主体の情報発信等、広報活動の展開	○小学校、中学校に出向いて、会計等について講演を行う。 ○部活動単位で、小学校、中学校、特別支援学校との交流を深め、本校の魅力をPRする。 ○月に1回の学校だよりの発行と行事ごとのタイムリーナ情報発信を行う。	・佐賀市内の小中学校に本校職員がお出向き、会計の重要性について講義する。 ・吹奏楽部が特別支援学校に交流演奏会を実施する。 ・1月の行事や生徒の活躍をまとめて情報発信するとともに、WebページやSNSを利用し旬な情報を発信する。	A	・1月下旬に県内の小中学校を訪問し、会計教育についての出前講座を行っている。 ・今年度も特別支援学校に交流演奏会を行った。 ・行事ごとにタイムリーにWebページを更新できた。また、今年度からInstagramによる配信を行っている。	A	・今年度、Instagramによる配信を行った。学校の様子をタイムリーに伝える工夫を続けたい。 ・11月に特別支援学校で交流演奏会を行い、生徒と職員に大変好評であった。 ・イベント毎に速やかにWebアップを行い、最新の情報を本校HPに掲載した。	A	・新しいSNSの導入は、生徒や保護者にとってより情報が身近なものになりやがった。今後の活動が楽しみである。 ・出前講座や訪問交流など、学校の魅力アップに積極的に取り組まれている。 ・公式インスタグラムは、学校生活や部活動の楽しそうな写真や動画が投稿されており、見やすい、また、運営に生徒が主体的に関わっているところも素晴らしいと思う。		
○活力ある学校づくり	○系統的な進路指導の充実	○学年の段階に応じたキャリア教育と3年生の進路確保(進路決定100%)	・進路実現100%という最終目標に向け、学年に応じた段階的な目標を設定し、学年団と連携しながら指導を行う。 ・系統的な指導のため、生徒の活動の記録を効率よく確実に管理する手段を検討する。	A	・すべての生徒が希望する進路を実現させるため、進路支援部と学年団で、連携して指導しており、成果をあげている。企業就職希望者は10月で全員決定した。 ・12年生担任団との打ち合わせをし適切な支援ができるよう関係職員の情報共有を密にしている。	A	・今年度も進路実現100%を達成できた。 ・小論文指導において、一人ひとりに対応した結果16名の国公立合格者を出すことができた。生徒にチャレンジする気持ちを育てることが大切であることを実感した。 ・1年生対象に体験型出前授業を行った。生徒たちの進路に対する意識を高めることができた。また、自ら人間関係を構築する事の大切さを学べた。 ・3年生による合格体験発表で1、2年生の進路意識を高めることができた。	A	・体験型の出前授業は進路を意識する貴重な機会となつており、今後も継続してほしい。 ・進路実現100%は素晴らしい。1、2年生に向けて3年生の言葉は何よりも力強かったと思う。今後も続けてほしい。 ・一人ひとりに対応した小論文指導が素晴らしい。国公立大学合格者数が倍増という結果は評価できる。		
	○高い志を持ち、自らの目標の実現に向けて主体的に取組む生徒の育成	○★生徒を主体とした取組の推進 ○「学校生活が充実している」と回答した生徒90%以上	・生徒会の各種委員会が自ら課題を設定し、学校活性化のために具体的に取り組む。 ・全校生徒に対して学校生活に関するアンケートを年間2回実施し、要望点を集約し、積極的に改善に向けて努力していく。 ・ルールメイキングプロジェクト委員会を組織し、生徒が自ら考え行動する機会を設ける。	B	・生徒会の各種委員会は学校の活性化のため、それぞれの課題を持ち委員会活動ができた。特に学校祭やクラスマッチ、飲酒運転撲滅キャンペーンへの参加など積極的に行なうことができた。 ・いろいろな生徒からなり多くの意見を吸い上げて具現化していく作業がまだ足らないと感じた。	A	・学校が決めた校則が生徒が愚直に従がっていく」という枠を越えて、「生徒自らが学校の現状を把握し、自分たちで声を上げ学校のルールを作っていく」という姿勢が大変であるが、生徒会がその先頭に立って実践できた。ルールメイキングプロジェクト委員会だけではなく、さまざまな生徒主体の委員会を今後立ち上げていける。その姿勢が学校への愛校心(佐商プライド)につながっていくと考える。	A	・生徒会中心ではなく、学校全体で生徒が主体的に声を上げる委員会の立ち上げに期待したい。 ・校則の見直しが、全生徒の参加意識を持たせる形で、さらに充実させてほしい。		
	○3学科の特性を生かした取組の推進と広報活動の強化	○★グラデューションボリシーに沿った各学科の特色を生かした教育活動の充実	・(商業科)課題研究では、地域・企業等と協働した取組を実践する。また、進路目標達成を目指し、社会理解や職業理解を深める。 ・(グローバルビジネス科)グローバル社会に共生するための助言を受け、海外留学生等の外国人との交流を図る。また、佐賀の文化学習を充実する。 ・(情報処理科)デジタル化による社会の変革等に強い関心を持つような講演会を実施する。また、実習及び演習の時間を十分に確保することで専門知識の深化及び情報処理技術の定着を図る。	A	・(商業科)4つの講座において外部から講師を招聘し、各分野で講義を行うことができた。また、地元企業と協働しながら販売実習で販売する商品の提案や地域探究のマーケティング活動を行なうことができた。 ・(グローバルビジネス科)外部講師の講話や校外学習を通して、外国人などいろいろな方々とコミュニケーションを図ることができた。 ・(情報処理科)実習及び演習の時間を十分に確保し、情報処理技術を定着させることができた。講演会は3月に実施予定である。	A	・佐賀駅前交流広場において、6グループが地域企業と連携し商品の仕入れ販売するといった実践的活動ができた。また、各講座において地域探究研究テーマとした取組みができた。進路目標達成を目指し、高度資格取得に挑戦し、進路実現につながることができた。 ・(グローバルビジネス科)外部講師の講話や校外学習及び外国人留学生との交流等、体験的活動を通してコミュニケーション力の向上や主体的、協働的学びができた。 ・(情報処理科)実習と演習により、情報処理技術を定着させることができた。また、地域の高齢者対象のスマホ教室や小学生対象の情報モラル教室など実践的な活動ができた。	A	・3学科とも質の高い学習と実践的な活動が行われていると感じている。 ・地元の企業と地域の課題を共有しながらさらに進めてほしい。 ・いろいろな団体との交流が素晴らしい。今後も地域から信頼され、佐商プライドを持った行動ができる生徒の育成をお願いしたい。		

●…県共通 ○…学校独自 ◉…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり

・新学習指導要領に沿った計画的な指導、評価の実現に取り組むことができている。教科によってはTTで行っており、多くの視点から生徒を評価できている。引き続き教科指導のレベルアップを図りたい。

6 総合評価・
次年度への展望

・生徒同士の人間関係のトラブル等があり、いじめ防止や情報モラルの指導を充実させる必要がある。人間関係が未熟でもあるので、生徒支援部と教育相談を中心につながっていきたい。

・課題テスト等の結果やスタディサプリの取り組み状況から、家庭学習の習慣が身についていない生徒が多くいる実態がつかめた。基礎学力の向上には家庭学習が欠かせない。今後も学習習慣の定着を目指し、部活動と勉強の両立に取り組む生徒を育成する指導の充実を全職員で図る。